

グリーンゴールへのアシスト



発表者

井手、小穴、小貫、成川、安田

記事の要約

- 国際サッカー連盟（FIFA）はワールドカップドイツ大会において、大会期間中に発生する温暖化ガスを排出権取引を利用して全量相殺することを決定した。
- このような国際スポーツ大会で主催者が温暖化ガス削減に取り組むのは今回が初である。

日韓W杯での対策1【環境省調べ】

＜日本＞・・・自治体レベルでの対策のみ

- 低公害シャトルバスの運用（横浜市）
- 太陽光発電施設の設置（埼玉県）
- リース品使用による廃棄物の削減（宮城県・大分県）

日韓W杯での対策2【環境省調べ】

＜韓国＞・・・国レベルでの対策

- 使用物品のグリーン購入
- 低公害車の利用
- ごみ減量・リサイクル

ドイツ大会での対策

＜主催者による対策＞

- グリーンゴール

水、廃棄物、エネルギー、交通分野における
環境負荷削減計画（数値化した目標）

- 排出権取引による温暖化ガスの相殺
南アフリカ、インドにおけるガス削減回収事業

予想される効果

(直接的な効果)

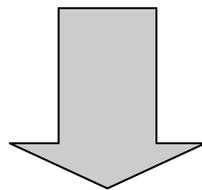
- 温暖化ガス排出量を10万トンに
- その10万トンの排出量を全て排出権で相殺

(副次的な効果)

- 南アフリカへの技術提供
- インドにおける生活の改善

2大会の取り組みの差の原因

ドイツと日本・韓国への環境意識の違い
京都議定書：2005年に発行



国によらずに環境対策が行われる
枠組みの必要性

私たちの提案

FIFAに環境基準を導入

1. 選考基準に環境対策事項を取り入れる
2. FIFAに京都議定書の排出枠を設定

具体的なプラン

- 開催国の選考基準に環境対策事項導入
→ 今回のグリーンゴールのような数値化した削減計画の提出。
- 京都議定書の排出枠設定
→ 温暖化ガス排出削減の数値目標を設定。
排出権取引の導入をFIFAが支援。

FIFAへの環境基準導入の メリット・デメリット

<メリット>

- 京都議定書に批准していない国で開催される場合でも対策が行われる。
- 環境対策による開催国のイメージアップ
- 世界中の人々に対する環境への意識付け
- 収入に対する費用の割合が少ない

<デメリット>

- 発展途上国が立候補するチャンスが減る
- 罰則がない→強制力がない

デメリットの解消

- 発展途上国の立候補の機会減
 - 開催中発生する温暖化ガスについて、先進国にCDM事業を依頼
 - 前回開催国と次回開催国との協力により、持続的な温暖化対策が可能。
- 強制力がない
 - しかし・・・削減計画と実際の対応との大幅なギャップは、国の信用に関わる。
 - 開催国は計画実行に向けて最大限努力する。

まとめ

- 国際スポーツ大会において、主催者が温暖化ガス削減に取り組むのは今回が初。
- 国によらず対策が円滑に行われるために、FIFAに環境基準を導入することを提案。
 - 1. 開催国選考基準に環境対策事項を導入
 - 2. 京都議定書の排出枠を設定
- スポーツと環境の共存

参考文献

- グリーンゴールについて(独YAHOO記事)
<http://2002.fifaworldcup.yahoo.com/02/de/030331/1/78.html>
- ドイツ環境省
<http://www.bmu.de/allgemein/aktuell/160.php>
- 日本環境省
<http://www.env.go.jp/>
- グリーンゴール公式ページ
<http://www.greengoal.de/>
- エコインスティテュート
<http://www.oeko.de/>
- 国連気候変動枠組条約・ホームページ
<http://unfccc.int/2860.php>
- (財)環境情報普及センター
<http://www.eic.or.jp/>
- FIFA公式ページ
<http://www.fifa.com/en/index.html>